

分類 番号	A16	取組 名称	脱炭素化社会を実現する観点から見る大学生・小学生と地域住民の意識と行動の変容に関する調査研究
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 松原 斎樹
研究担当者：			
京都府立大学（松原斎樹、羽原康成） 外部分担者・協力者（戸田都生男氏、木原浩貴氏、榊貢氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府南丹市、大野区、 京都市、NPO 法人京都府地球温暖化防止府民会議			
【研究活動の要約】			
<p>南丹市美山大野区をフィールドとしている美山木匠塾の活動は、5月現地調査、9月に制作合宿を行い移動式のミニ茶室を制作し、10月の運動会・感謝祭において、住民に披露をした。また、地域の活性化を目指して、ホームステイを含めて現地調査を行い、大野区を紹介するリーフレットを作成し、広く配布した。この活動のプロセスによる学生と住民の意識の変化を調査し、分析した。学生の温暖化対策に関する意識調査を行って、約200名から回収して分析を行った。小学生の環境教育である夏休み省エネチャレンジは、140校19,000世帯以上が参加しており、このデータを分析して、考察した。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>美山木匠塾では、中山間地域である美山大野区の振興のために、ミニ茶室「あつまるま」の制作と大野区を紹介するリーフレットを作成して配布した。作品は、3年連続で「木を活かす学生課題コンペティション」で表彰された。これらの活動は、（京都新聞2018年3月17日「木匠塾地域と歩み20年」、京都新聞2018年3月21日「美山大野区の魅力感じて 木匠塾の学生ら散策リーフレット制作」、ケーブルテレビ局南丹市情報センターのもぎたてニュース2018年3月15日）</p> <p>夏休み省エネチャレンジの分析結果からは、実行度が高いほど高得点群が多く、省エネチャレンジを行うことで、環境配慮意識・行動が向上すること等がわかった。毎年継続することの意義が明確になり、温暖化防止活動推進員や教員が毎年継続的に活動することの意義が確認された。</p> <p>学生の意識アンケートからは、2015世界調査結果から推測された日本の学生の傾向が確認された。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>1. 成果報告会 H30/3/20 京都府立大学稲盛記念会館 106 温暖化防止活動関係者等約30名</p> <p>2. 学会発表の予定 羽原康成他：木のものづくり活動参加者の意識と行動の変化に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、2018 金悠希他：児童と保護者の環境配慮行動に関する実態調査、—京都府夏休み省エネチャレンジ参加者の分析—日本建築学会大会学術講演梗概集、2018</p>			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 建築環境工学研究室 教授 松原 斎樹 Tel: 075-703-5426 E-mail: n_mats@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)



2017 年度 制作物あつまるま



制作の様子



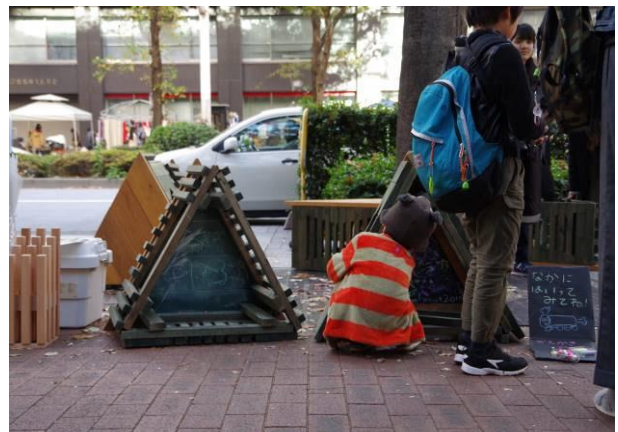
2017 年感謝祭



2017 年もみじ祭り



リーフレット



Open Muji